

## 世界に先駆けていま、展示映像のアーカイブを進めよう ～一般社団法人展示映像総合アーカイブセンターが始動～

脇山 真治

わきやま・しんじ 一般社団法人展示映像総合アーカイブセンター代表理事  
九州大学名誉教授・博士(芸術工学)

展示映像についての厳密な定義はないが、一般的には博覧会や見本市等のイベント、博物館等の文化施設、テーマパークや空港・ショッピングモール等の商業施設などに使われる映像の総称である。マルチ映像をはじめ大型映像、3D映像、ライブ演奏との複合演出などさまざまな形式があり、システムや映像の仕様は多岐にわたる。世界標準とは無縁の特殊な映像である。

映画が100年以上にわたって製作・上映されたものが世界中のフィルムセンターや図書館の映像アーカイブで保存されているのに対して、展示映像はほとんど残されていない。

かつて私がマルチ映像の研究を志した1970年代後半、参考文献や論文はおろか、過去の作品を参照することがほとんど困難であるという現実に直面した。マルチ映像が1967年(モントリオール)、1970年(大阪)の国際博覧会であれほど話題になったにも関わらず、である。直近のイベントで制作された作品ですら満足に検証することもできない。その状況は今日まで変わらず、その結果としてマルチ映像を専門とする研究者もまた、熟知した制作者もほとんどいない。

マルチ映像は俯瞰すれば、いわゆる展示映像のひとつである。その展示映像がほとんど残されず、のちの時代の制作者が過去の作品を参照することはできず、後年の研究者が展示映像の歴史や作品分析をする状況にないことは想像に難くない。

承知のとおり展示映像はそれなりの予算を投入し、一時的な公開という側面もあって新技術を競い、世界初、世界最大、国内史上初などをうたいながら時代の最先端の映像パフォーマンスを繰り広げている。「一過性映像」という認識で関係者も納得して、そもそもアーカイブするという発想はない。コンテンツや上映機材や関連資料は、かりに廃棄されても散逸しても誰も困らない、だれも異議をとねえない。場合によっては「上映期間後になくなってしまふ、そのはかなさこそが、展示映像たるゆえんだ」とまでいわれる。

展示映像の嚆矢は1900年のパリ万国博覧会である



科学技術館サーキノ(撮影:牛窪正氏(故人)1976年頃)



つくば科学万博IBM館(撮影:松尾悟氏)1985年

う。360度のサークルビジョンが原初的な形とはいえ登場したのには驚愕する。映画が発明されてわずか5年後のことである。映画とほぼ同じ歴史をもち、常に最新の技術や表現を追求し、同時代のすぐれたクリエイターたちが関与した展示映像を後世に残すのは、私たちが果たすべき役割ではないか。その思いから2009年に展示映像総合アーカイブプロジェクトを九州大学芸術工学研究院でスタートさせた。

この趣旨に賛同いただき、全国の制作者や博物館からいくつも作品や関連資料が寄せられ続けている。フィルム、スライド、ビデオテープ、データ、印刷物な



まつり博・三重 '94 テーマ館 1994 年

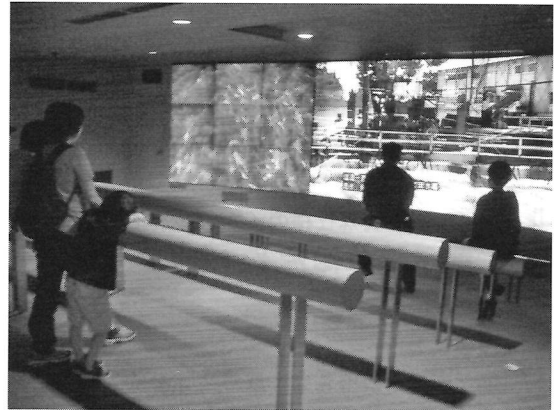
ど仕様は多岐にわたる。フォーマットを統一できないのもまた展示映像の特徴である。展示映像といえどもアーカイブする以上は何らかの形式で再現可能な状態で保存したいと考えているが、とうにパピリオンも解体され、上映システムもスクリーンも特殊な音響セットも存在しない。私たちが収集した資料の一部は上映環境の記録映像として見ることができる。オリジナルに近い形式で鑑賞することも可能である。資料写真も収集している。

このプロジェクトを受け継ぎ、実質的な推進母体として一般社団法人展示映像総合アーカイブセンターを4月1日に福岡にて設立した。概要は次ページのとおりである。

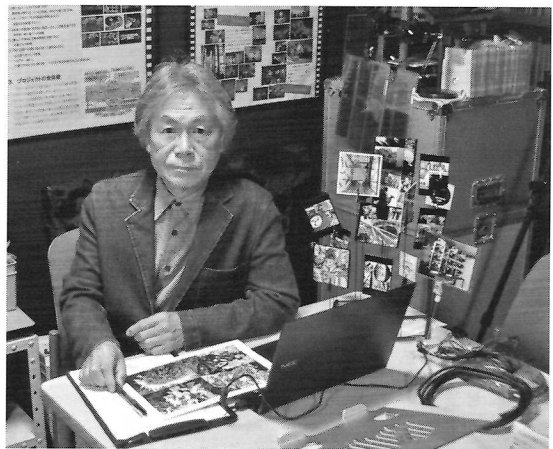
時代はすでにデジタル映像となり、展示映像の範疇も急速に拡大している。プロジェクションマッピング、VR ゴーグル映像、コンサートのステージ映像、花火大会とのコラボ映像などが毎日のように業界誌・紙やネットでも紹介される。これらの記録方法、再現（疑似的）方法、権利関係の整理、収集、運営費用の確保、関係者への支援要請などなど、課題は山積している。

しかしこれを放置すれば、貴重な映像作品群は、あっというまに永久に消滅してしまうことは目に見えている。すぐにでも展示映像の記録と保存の活動を充実させて、これを継続的に進めたいと考えている。

さいごに…1988年埼玉県熊谷市でさいたま博覧会



千歳サケのふるさと館（現千歳水族館）2003年



事務所にて、筆者

が開催された。渋谷栄一館で上映されたのが『未来への挑戦～渋谷栄一物語～』で16mmフィルムによる3面マルチ映像だった。監督は平成ゴジラシリーズで特技監督をつとめた川北紘一氏（故人）である。渋谷翁はNHK大河ドラマや新一万円札の顔など、話題の人物だけに関心も高まっている。フィルム原版はすでに処分されていた。唯一テレシネで残された当時のVHSビデオテープの映像を、その後デジタルデータとして抽出し、博覧会から33年を過ぎたいま再現可能な状態でこのプロジェクトで保存されている。

(2021年4月1日設立)

一般社団法人展示映像総合アーカイブセンター  
〒810-0041 福岡市中央区大名 1-14-28-403  
TEL090-1878-0804  
e-mail : wakiyama.shinji@kyudai.jp

press release

## 国内初:特殊仕様のイベント映像を記録・保存する 展示映像総合アーカイブセンターを福岡に開設します

### <概要>

展示映像とは博覧会や展示会等のイベントや博物館、テーマパーク等のために制作・上映された特殊な映像の総称です。展示映像の多くは上映期間が終了しても保存されることがほとんどなく、いつしか破棄されたり散逸してしまうという現状にあります。時代の最先端の映像であり最高のスタッフと技術をもってつくられた希少映像を将来に向けて残すために、2021年4月1日、わが国で初となる展示映像総合アーカイブセンターが一般社団法人として福岡でスタートします。

### 1. 背景と目的

映画は発明された初期のものから今日のデジタル作品まで世界中で保存されています。日本でも国立映画アーカイブ等に永年にわたって残されています。しかし博覧会や博物館、各種イベント等のために制作された展示映像は上映終了後に保存されることはほとんどなく、周辺資料についてもその存在の有無はほとんどわかっていません。撮影や上映の関連機材もすでに多くが廃棄されており歴史資料自体が消滅しつつあります。これらを将来の制作者や研究者のために記録・保存することが本アーカイブセンターの目的です。

### 2. センターの活動内容

本センターの前身は、2009年から九州大学芸術工学研究院ですすめていた「展示映像総合アーカイブプロジェクト」です。すでに多くの制作会社や研究者の協力を得て展示映像のフィルム、デジタルデータ等が集まっています。これを引き継ぎ、展示映像に関する調査、作品データや資料の収集、保存、権利関係の整理、修復、デジタル化等をおこない、可能な範囲で再現あるいは疑似的な視聴ができるよう残していきます。別紙記載は現在までに保存している作品の一部です。展示映像の保存は困難とされるなかにあって、すでに複製の作品はデジタル化され、再現可能な状態にあります。センターはこのプロジェクトの推進母体です。

### 3. 本組織の活動意義

映画は世界標準となる技術仕様があります。それはフィルムの時代から今日のデジタルに移行しても同様です。しかしながら展示映像は多くが特別仕様の「一点もの」であるため作品ごとに上映システムが異なっています。さらに上映空間、特殊音響、スクリーンの形状やモニターの数、照明効果、ライブの演奏とのコラボなどで構成されることもあり保存の制約が非常に多い映像です。したがって映像・音響のコンテンツだけでなくこれらの「周辺情報」も含めて、総合的な映像コンテンツとして残す必要があるのです。本センターの資料は過去の展示映像をひも解くことのできる国内で唯一のアーカイブとなるでしょう。現在、作品の一部は東京や大阪に散在しています。周知の大災害を想定したときにこの福岡で作品の複製あるいはデジタルデータ等を保存することは、映像遺産の消滅を回避する危機管理の上からも意味があることと考えます。

### 4. 今後の展開

展示映像の廃棄と散逸を一刻もはやく防ぐために、可能な限り収集することが喫緊の課題です。また今後も展示映像作品の制作は継続されると考えられますが、記録や保存の指針（マニュアル）を策定し、映像制作会社やイベント主催者への協力要請を行っていきます。同時代の最高の技術、表現、スタッフを擁した特殊映像が制作された事実を将来に向けて残し続ける意義を多くの関係者と共有していきます。

## <参考資料>

### アーカイブされている展示映像作品の例

- (1) 『日本と日本人』日本万国博覧会(1970)日本館上映8面マルチ映像で市川崑監督作品。2013年6月東京都内にてフィルム原版を発見(現在原版は東宝にて保管)。いまだ音声原版は見つからず。8面合成版。
  - (2) 『鉄と稲』つくば科学万博(1985)歴史館上映作品。スライド原版ならびに上映プリントの大半、大型映像 JAPAX の縮小版 35mm、上映記録映像、上映会場記録写真等。
  - (3) 『未来への挑戦～渋沢栄一物語～』さいたま博覧会(1988)渋沢栄一館3面マルチ映像
  - (4) 『新しい北海道』北海道開拓記念館(1992)6面マルチ映像
  - (5) 『左門と一緒に』千歳サケのふるさと館3面マルチ映像
  - (6) 『JL002 東京～サンフランシスコ』科学技術館(1970年代)9面サークルビジョン
- その他多数の展示映像映像作品と資料



**合成版保存(DVD等)**：『TOKIを探せ～新潟ふれあいのたび～』8面マルチ映像、新潟ふるさと村／『さいふまいり』3面マルチ映像、大宰府天満宮展示館／『近畿の森』5面マルチ映像、大阪花の万博いちょう館／『流～STREAM～』3面マルチ映像、ルイジアナ国際河川博覧会(1882)日本館／その他

**スプリットスクリーン作品(DVD等)**：『Multiple Man』カナダ国立映画庁(1969)／『View From The People Wall』New York World's Fair1965／『In the Labyrinth』カナダ国立映画庁(1967)／『House of Science』C&R.Eames(1962)／『Goods』C&R.Eames(1981)／その他

### 【お問い合わせ】

一般社団法人展示映像総合アーカイブセンター  
代表理事 九州大学名誉教授 脇山真治  
電話 090-1878-0804  
e-mail: wakiyama.shinji@kyudai.jp